

野口氏の書齋をあなたに

『インターネット超活用法』

ウェブでちょっとした調べものができたといっても、それはインターネット活用のほんの入り口に立っているにすぎない。いかに短時間に必要な情報を正確に探し出して仕事に結び付けるか、インターネットへ自分から情報を発信して仕事に役立てることができるかが大切だ。

本書は「超」シリーズの著者が、インターネット利用のコツを教えてくれる。インターネットはどう使えるか、効率よく活用するには

どうしたらよいかを解説する。手順を追ってこうしなさいとは言っていないので、中級者向けである。後半は、インターネットの情報源を集めたページになっている。これは、前半の活用法を効果的に利用するためのネタになっている。

そして、これらの集大成である筆者のホームページ「野口悠紀雄オンライン」を利用するためのアクセスキーが付属している。これをホームページで使えば、あたかも野口氏の書齋を借りているような

気になる。使いやすく整理された情報ページは個人図書館のように整備されており、非常に完成度の高いインターネット活用ページである。



野口 悠紀雄 著
講談社
237ページ
本体1,400円+税
ISBN4-06-338953-7



データの宝庫に振り回されないために

菊地宏明 Hiroaki Kikuchi

インターネットの現状を正確に把握するために

『インターネット白書'99』



日本インターネット
協会編
インプレス
188ページ
本体4,800円+税
ISBN4-8443-1269-3

インターネットの存在は今や社会の一部として、大きな影響を与えている存在になっている。そのインターネットの現状をより具体的な数字で把握しようとするならば、本書はぜひ必要な一冊だ。膨大なデータと専門分野の有識者の解説が、日本のインターネットの状況を的確に映し出している。

第1部の利用者動向では、日本のインターネット人口が1500万人を超えたことをトップであげ、さらに個人や会社での利用状況につい

て掘り下げている。2部ではインターネットを支えるインフラについて取り上げている。数値として表せない新技術やサービスについては、研究者、学識者の解説で補われている。そして、3部は全産業が近年力を注ぎ始めたインターネットビジネス。電子決済、インターネット証券取引、通販、ポータルサイト、出版、放送、広告などの動向を、業界関係者、ジャーナリストらが解説する。4部は社会を主題に犯罪、セキュリティー、教育、自治体、法律などとの係わりを、さまざまな側面から映し出す。最終部では、国際的なインターネットの状況をデータを中心に解説し、世界やアジアでの日本の位置付けが描かれる。インターネット関連組織の解説、1年分のINTERNET Watchの記事、掲載主要データなどが収録されている付録CD-ROMも重要な資料だ。

米国の実体を公式文書で読む

『デジタル・エコノミー』

今から2年前、1997年米国クリントン大統領、ゴア副大統領が発表した「電子商取引の世界化構想」の一環で商務省が作成したレポートである。前半で、インターネットが拡大傾向にあり、企業においては電子商取引のインフラとして使われ始めている状況を解説し、そこでの商取引の内容と、消費者のメリット、それらを支えるIT産業の経済動向と雇用状況、そしてインターネットのこれからで締めくくられている。後半では電子商取引のケーススタディーとして21の企業の事例を取り上げている。ここに掲載されている事例の多くは、ネットワークやコンピュータベンダー、システムインテグレーターが電子商取引の成功事例として取り上げているものばかりである。

このレポートは米国では2年前に出版されているから、それから多く出回った電子商取引の解説本の元ネタになっているのは想像がつく。米国経済が好調である一因が、電子商取引の発達やそれを支えるIT産業の成長にある。また、そこに日本経済の回復のきっかけを見出そうとしている。どの企業も電子商取引への展開をキーワードとしている所は多く、非常に期待がかかっている分野だ。しかし、基盤となっている日本のインターネットの状況は米国とすべて同じではないという前提を、しっかり把握しておく必要はあるだろう。



米国商務省 著 /
室田 泰弘 訳
東洋経済新報社
281ページ
本体1,800円+税
ISBN4-492-76107-1

これからの出版を考える

『ルネッサンス パブリッシャー宣言』

ワープロが流行し、パソコンが会社に普及する頃、文章をフロッピーディスクに保存することが普通になった。人はそれまで、文書はインクのシミとして紙に記録することがごく当たり前感じていたのだが、文字をフロッピーの磁気媒体に記録できということを知った。そして、我々は初めてデジタルとして記録されたテキストを意識し始めた。いつのまにか、デジタル化された文書が通信回線を介して、毎日大量に伝達される時代になっている。ウェブ、電子メール、添付ファイル...どれもデジタル化されたテキストなのだ。

しかしこんな世の中

でも、いまだにインクの染みのついた紙束に依存している業界こそが出版業界なのである。劣化のない複写、容易な生産性、保存性も良好というデジタルデータが趨勢を占める中、本書では出版はどうなってしまうのだろうかという危機感を募らせる。本書ではひつじ書房の創設者がこれからの出版のあり方を提言する。インターネットでテキストを購入する投げ銭システムを提案し、「シェアテキスト」の流通が経済的に成り立つことを目指す試みが始められようとしている。必要がある限り出版はなくなることはないだろう。しかしこれから先がどうなる

かは誰にもわからない。

出版界からのこの

試みに期待したい。



松本 功著
ひつじ書房
190ページ
本体2,200円+税
ISBN4-89476-102-5

ホームページのビジネス戦略とは

『インターネット企業戦略』

林志行 著
東洋経済新報社
260ページ
本体1,700円+税
ISBN4-492-55317-7



サブタイトルに「実践的ホームページの作成」とあるが、本書は、HTML記述テクニックやクールなデザインの本でもなければ、マーケティング的にヒットするホームページの作り方の本でもない。本書は、企業人が企業のためにインターネットを、中でもウェブによる

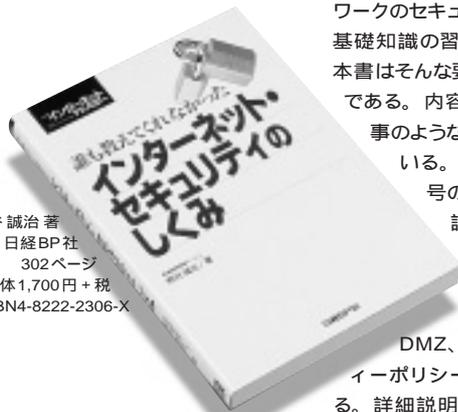
情報発信を活用するためのガイドブックである。

インターネットに情報を発信できるホームページを実験的に作成し、企業にとってどのように活用できるかを思考錯誤していた頃のホームページを第1世代ホームページと呼び、続いて始まった初期の公式ホームページ、つまり実験的試みから全社的情報発信手段として意識し始めた頃のホームページを第2世代ホームページと呼んでいる。そして本書では、顧客と企業との関係を再確認し、ホームページのコンテンツを整理して体系付けながら、情報発信のあり方を再定義しており、これを第3世代のホームページと呼んで解説している。リスクマネジメントやインベスター・リレーションをも盛りこんでおり、これからの企業ホームページを考えるうえで参考になる。

初心者にもセキュリティをわかりやすく

『誰も教えてくれなかった インターネット・ セキュリティのしくみ』

熊谷 誠治 著
日経BP社
302ページ
本体1,700円+税
ISBN4-8222-2306-X



今年の新入社員もそろそろ配属部署が決まって、いよいよ専門分野の仕事へと別れていく頃。そんな新規配属や配置転換でもし社内の情報サービスへ配属されると、エンドユーザーの立場から、ネットワークを管理しエンドユーザー

をトラブルから守る立場へと180度変わる。

そんな管理の初心者、ネットワークのセキュリティについての基礎知識の習得に戸惑うものだ。本書はそんな要求に答える解説本である。内容は専門誌の特集記事のような読みやすさを備えている。盗聴の可能性、暗号のしくみ、ユーザー認証、ハッキングされる危険性、ファイアーウォール、プロキシサーバー、DMZ、VPN、セキュリティポリシー等が解説されている。詳細説明をすとなるとかなりのボリュームがある内容だが、概要をさらりと書いているので、初心者でも頭が痛くならず済む。具体的なセキュリティ対策については書かれていないが、まずセキュリティとは何なのかを知ることができるようになっていく。

ICQでリアルタイムコミュニケーション

『入門! 最新版ICQ』

早川 聖司
小栗 一夫 著
きんのくわがた社
263ページ
本体2,000円+税
ISBN4-87770-018-8



先日通勤電車の中吊り広告に目をやると、とある男性週刊誌に「ICQで世界中の彼女を探索せよ!」という見出しが踊っていた。思わず、降りた駅のホームでその雑誌を買ってしまった。その記事にもコメントを寄せていたのが、本書の著者の1人である小栗氏だ。記事は「ICQでナンパしようぜ」というものだった。しかし本書はその延長線上的内容ではなく、ICQのスタンダードな入門書である。ICQはコミュニケーションツールとしてインターネットで普

及しているが、英語版のままで日本語化されていない。何から何まで表示はすべて英語表記となっている。そのために、恐れおののいて踏み込めない初心者も多い。

本書はICQを実際に使いながら、何ができるのかわかる構成になっている。全画面英語でも怖くないように、必要な画面のスクリーンショットに日本語の解説を丁寧につけてある。そのために、流れから外れなければ問題なくすすむことができる。使われているICQはWindows版が99a、Mac版が1.7.2である。ウェブと電子メールしか知らなかったユーザーは新たな楽しさを知り、ICQのユーザーも搭載されている機能の数々を詳しく知ることができるだろう。欲を言えばLANユーザー向けのプロキシ設定解説等などがあれば更によかった。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp